



いまむかし
翻訳文学 今昔

平成9年2月18日～3月21日

今日では多くの人々が外国へ出かけ、異文化に直に接していますが、西洋文化が急速に流入しはじめた「文明開化」の時代、渡航はおろか、外国の書物を手に入れることさえ困難でした。今ではよく知られている翻訳文学のタイトルも、当時のものを見ると悪戦苦闘しながら西洋文化を摂取しようとしている様子がよくわかります。

今回の展示では、明治時代に翻訳あるいは翻案された図書と、最近の翻訳を比較してみました。

＜ クイズ ―昔と今の作品を組み合わせてみましょう― ＞

昔

今

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 通俗伊蘇普物語 | A. アラビアン・ナイト |
| 2. 開卷驚奇 暴夜物語 | B. モンテ＝クリスト伯 |
| 3. 絵本 鷲瓊幡児回島記 | C. ヴェニスの商人 |
| 4. 露国奇聞 花心蝶思録 | D. シャーロック・ホームズ |
| 5. 西洋珍奇 人肉質入裁判 | E. 大尉の娘 |
| 6. 泣花怨柳 北欧血戦余塵 | F. レ・ミゼラブル |
| 7. 開卷驚奇 西洋復讐奇談 | G. 不思議の国のアリス |
| 8. 露妙樹利戯曲 春情浮世之夢 | H. イソップ物語 |
| 9. 鈍機翁冒険譚 | 1. ガリヴァー旅行記 |
| 10. 噫無情 | J. ロミオとジュリエット |
| 11. 愛ちゃんの夢物語 | K. 戦争と平和 |
| 12. 英国探偵奇聞録 | L. ドン・キホーテ |

1—H 2—A 3—I 4—E 5—C 6—K 7—B 8—J 9—L 10—F 11—G 12—D

< 景 >

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

1. 通俗伊蘇普物語

トマス・ゼームス訳 渡部温和訳 <YDM101209>

東京 渡部温 1875(M8)

①. イソップ童話集

チャールズ・ロビンソン絵 立原えりか文 <KP31-39>

東京 立風書房 1982(S57)

The Fables of Aesop の和訳。『通俗伊蘇普物語』は、トマス・ゼームスの英訳に基づき、渡部温が和訳したもの。渡部温は明治初年頃から蕃書調書で英語を教え、明治8年からは東京外国語学校長を勤めた人物。原文に忠実で平仮名まじりの平易な日本語に訳されている。なお、イソップ物語が日本にはじめて紹介されたのはキリシタン版で、西洋文学の中で異例にはやい1593年であった。

2. 開巻驚奇 暴夜物語 巻1,2

永峰秀樹訳 <YDM100796>

東京 奎章閣 1875(M8)

②. アラビアン・ナイト

前嶋信次訳 <929.76-A648a-M>

東京 平凡社 1966(S41)

『暴夜物語』という書名は「アラビヤモノガタリ」と読む。書名の上にある「開巻驚奇」は本来二行書きになっており、角書と呼ばれるキャッチコピーである。明治初年から明治10年代までに翻訳された図書に多くみられる。②の平凡社東洋文庫版は、日本で初のアラビア語原典からの完訳である。

3. 絵本 鵞璣蟠児回島記 初編 小人国の部

ス維弗的(スウキフト)著 片山平三郎訳 <YDM100928>

東京 薔薇楼 1880(M13)

③. ガリヴァー旅行記

J. スウィフト作 坂井晴彦訳 C. E. ブロック画 <Y8-5050>

東京 福音館書店 1988(S63)

Gulliver's Travels の翻訳。『鵞璣蟠児回島記』は、「ガリバルスシマメグリ」と読む。ガリヴァーが本編のリリパット国(小人国)を含む4つの島を旅するためつけられた邦訳。「ガリバー旅行記」は明治の後半にはかなり広く知れわたることになる。その著書でスウィフトは、イギリスの現状を鋭く批判、風刺した。

4. 露国奇聞 花心蝶思録

プシキン著 高須治助訳 <YDM100916>

東京 法木書屋 1883(M16)

④. 大尉の娘

プシキン原作 河崎啓一文 吾妻萱平え <Y8-915>

東京 日本書房 1983(S58)

Капитанская дочкаの翻訳。『花心蝶思録』は、「大尉の娘」の抄訳。著者は序文で「露国人情ノ真味ヲ知ラ使ント欲ス」と翻訳の目的を明らかにしている。「大尉の娘」という表題は1916年(大正5年)、瀬戸義直によりつけられた。

5. 西洋珍奇 人肉質入裁判

シェキスピーヤー著 井上勤訳 <YDM101085>

東京 今古堂 1883(M16)

⑤. 世界の文学セレクション 36 2

シェイクスピア 2 <KE211-E48>

福田恒存訳

東京 中央公論社 1994(H6)

The Merchant of Veniceの翻訳。『人肉質入裁判』は「ヴェニス商人」の翻訳で、内容を知っていればすぐにピンとくるタイトル。訳者井上勤は、ドイツ領事館の通弁から大蔵省関税局の翻訳掛になった人物。

6. 泣花怨柳 北欧血戦余塵 第1巻

トルストイ著 森體訳 <YDM101364>

東京 忠愛社 1886(M19)

⑥. 戦争と平和 上

トルストイ著 北御門二郎訳 <KP242-14>

東京 東海大学出版会 1978(S53)

Война и мирの翻訳。『北欧血戦余塵』は、「ホクオウケッセンヨジン」と読む。ナポレオン戦争の頃のロシアが舞台になっており、そのイメージを訳したものと思われる。本文は漢文直訳風の和訳。мир(ミール)というロシア語には「平和」と「世界」という意味があるため、『戦争と平和』は最初、『戦争と世界』であったという説がある。

7. 開巻驚奇 西洋復讐奇談 前編

関直彦訳 <YDM101119>

東京 金港堂 1887(M20)

⑦. **モンテ＝クリスト伯**

アレクサンドル・デュマ著 泉田武二訳 <KR154-E16>
東京 講談社 1990(H2)

Le Comte de Monte-Cristo の翻訳。この頃翻訳された図書には「西洋～」というタイトルが多数ある。前編は「ダンテ、フェランド、ガデルース、モルレル、ビレフォー等の人々の行末如何なるや後編に詳かならん。」と締めくくられるなど、まるで活動写真の弁士の口調である。奥付に本書の出版関係者の身分の記述があるのも興味深い。訳者関直彦は東京府士族。

8. **露妙樹利戯曲 春情浮世之夢**

沙士比阿(セキスピヤ)著 河島敬蔵訳 <YDM101062>
和歌山 耕文舎 1887(M20)

⑧. **河出世界文学全集 第2巻**

ハムレット・オセロー・ロミオとジュリエット他 <KE211-E23>
シェイクスピア著 福田恒存・中野好夫ほか訳
東京 河出書房新社 1989(H1)

Romeo and Juliet の翻訳。「ロミヨー様 ロミヨー様 何故御身之ロミヨーと御名を附られたか」(『露妙樹利戯曲 春情浮世之夢』)訳者河島敬蔵はシェイクスピアの戯曲を次々に訳した。因みに奥付によれば身分は和歌山縣平民。

9. **鈍機翁冒険譚**

セルバンテス著 松居松葉抄訳 <YDM101255>
東京 博文館 1896(M29)

⑨. **ドン・キホーテ 第1巻**

セルバンテス著 会田由訳 <KR473-16>
東京 晶文社 1985(S60)

Don Quixote の翻訳。『鈍機翁冒険譚』は、「ドンキホーテ」の抄訳。ドンキホーテは鈍機翁、サンチョパンサは三公。「人名地名をことごとく漢字になしたるは読者の見やすからんとてなり。文字に何の意味もなし。ただ音を移せしのみ」(序文より)

10. **噫無情 前編**

ユゴー著 黒岩涙香訳 <YDM100770>
東京 扶桑堂 1906(M39)

⑩. **レ・ミゼラブル 上**

ヴィクトル・ユゴー作 清水正和編・訳 G. ブリヨンほか画 <Y9-2218>
東京 福音館書店 1996(H8)

Les Misérables の翻訳。『噫無情』の中でジャンバルジャンは戎瓦戎→斑井市長→本田守安男爵と

名前を変え、コゼットは小雪、ジャベル刑事は蛇兵太である。数々の名訳を残した黒岩涙香だが、序文で、自分にはユゴーほどの文才がないと嘆き、また翻訳については「余が原書を読んで、余の自ら感じ得たるが俣を余の意に従ひて述べゆく者なれば、翻訳といはんよりも人に聞きたがる話をば我が知れる話として人に話すが如きものなり。」と記している。

11. 愛ちゃんの夢物語

ルイス・キャロル著 丸山英観(薄夜)訳 <YDM100772>
東京 内外出版協会 1910(M43)

⑪. 不思議の国のアリス

ルイス・キャロル著 ドウシャン・カーライ絵 矢川澄子訳 <KS153-E233>
東京 新潮社 1990(H2)

Alice's Adventures in Wonderland の翻訳。『愛ちゃんの夢物語』は、「不思議の国のアリス」の日本で最初の翻訳図書。アリスは愛子になっている。日本で聞き慣れないお菓子等には簡単な説明がついている。

12. 続英国探偵奇聞録

コナン・ドイル著 郡山経堂訳 <YDM100846>
東京 文華堂 1911(M44)

⑫. シャーロック・ホームズ大全

コナン・ドイル著 鮎川信夫訳 <KS154-285>
東京 講談社 1986(S61)

The Adventure of Sherlock Holmes の翻訳。『続英国探偵奇聞録』で、ホームズは堀夢、ワトソンは綿園、ジェイビズ・ウィルソンは宇佐彌平、ベイカー街は麴麴屋町と固有名詞こそ日本的になっているがその他は原文に忠実な訳である。

